

---

## He Profits Most Who Serves Best

2010年手続要覧の英語版が発行されました。内容を精査すると、過日シカゴで開催された2010年の規定審議会において、ロータリーの第二モットーが One Profits Most Who Serves Best に改定されたことを受けて、ロータリー・モットーや索引等の項目はすべて Service Above Self と One Profits Most Who Serves Best に統一されていますが、社会奉仕の項目(104頁)に記載されている「決議 23-34」には、He Profits Most Who Serves Best と They や One ではなくて He が使われています。

実は私は2004年の規定審議会において決議案 04-273「ロータリーにおいて歴史的に重要な声明や文書の原文の用語を保存することを考慮するよう、RI 理事会に要請する件」を提案し、ドクターマン元 RI 会長や多くのロータリアンの支持を受けて、これが採択されたという経緯があります。この決議案を順守して決議 23-34 が歴史的に重要な文書ということでシェルドンの言葉「He」がそのまま残ったということならば、これに勝る喜びはないわけです。

私は古いシェルドンの文献を収集、調査した結果、He Profits Most Who Serves Best というフレーズは、1902年にシェルドン・ビジネス・スクールの教科書として発行された Successful Selling という本に掲載されていることを発見しました。したがってこの言葉はロータリーが作った言葉ではなくて、ロータリーがシェルドンからお借りした大切な言葉だという認識を持って保存し使うことが必要であろうと思います。ロータリーが作った思考や言葉ならば時代の変遷とともにそれを大胆に変えていく勇氣も必要かもしれません。しかしロータリーが創立される以前に作られた言葉をロータリーが拝借しているとするならば、それなりの配慮を払う必要があります。

この10年来、公民権運動にかこつけていたずらに言葉をもてあそんできたような気がします。もうこの辺でこの不毛な論争は終わりにしたいものです。